

(記載例：県単補助金以外)

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業 項：水産業費 目：水産研究費

事業名 水産研究所試験調査費（国補・県単）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 水産研究所 電話番号：0586-89-6352

E-mail：c24101@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,664千円（前年度予算額：3,664千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,664	1,484	0	0	0	0	423	0	1,757
要求額	3,664	1,484	0	0	0	0	423	0	1,757
決定額	3,664	1,484	0	0	0	0	423	0	1,757

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

地域の河川漁業、養殖業が抱える多様な課題に対して迅速、柔軟に対応するため、現場のニーズを的確に把握し、行政と一体となって新技術開発や技術支援を実施する。河川漁業のうち、アユについては感染症の蔓延防止策及び放流事業の効率化、アマゴ等溪流魚では自然再生産を活用した増殖技術の開発が課題となっている。養殖業では、アユ冷水病など感染症の蔓延防止策や生産の効率化とともに、高付加価値魚の生産や地域ブランドの開発に対する強い要望がある。また、全国や地域で問題となる課題に対しては、幅広い分野の技術シーズを活用することにより、本県の内水面水産業における技術的課題の早期解決を図ることが求められている。

(2) 事業内容

県内の水産業界が抱える多種多様な課題に対して機動的・即応的に対応するため、以下の研究開発8課題を実施する。

(県単試験調査費)

- ① ドローンによるカワウの追払対策及び調査技術研究
- ② マス類卵の水カビ寄生抑制方法の検討

- ③ 水産対象魚種の増殖手段と多面的機能発揮を両立させる水田魚道の評価
- ④ 付加価値の高い優良養殖魚種の開発および飼育技術確立研究
- ⑤ チョウザメの種苗生産技術に関する研究
- ⑥ 水防災・農地・河川生態系・産業文化への複合的な気候変動影響と適応策の研究

(国補試験研究費)

- ① 環境収容力推定手法開発事業 (アユ)
- ② 環境収容力推定手法開発事業 (溪流魚)

(3) 県負担・補助率の考え方

県単(県 10/10)、国補(国 10/10)【県水産業の振興に寄与する調査研究】

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	464	研究推進のための出張用旅費
需用費	2,762	研究用消耗品購入費、出張用公用車燃料費、飼育用餌代等
役務費	248	電話代・郵便代
委託料	150	研究推進のための業務を委託する費用
その他	40	出張に必要な高速道路料金
合計	3,664	

決定額の考え方

財政課予算担当者にて記載します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

本県では、「清流の国ぎふ」を掲げ、豊かな自然を活用した地域振興に取り組んでおり、本県水産業の再生は「清流の国ぎふ」づくりに欠かせない重要な課題である。水産研究所では、河川漁業・養殖業を活力のある産業として維持・発展させるため、ぎふ農業・農村基本計画（計画期間：令和3年～7年度）の四つの基本方針に従い、「担い手づくりに向けた産業基盤強化技術の開発」、「安心して身近な県産水産物生産に向けた養殖技術の開発」、「県産水産物のブランド展開に向けた新品種等育成技術の開発」、「地域漁業資源の持続的利用

に向けた技術の開発研究開発」に取り組む。

(2) 国・他県の状況

本県では、生産者、漁業協同組合等からの研究ニーズおよび行政要望を集約し、地域ニーズや迅速かつ柔軟に対応する課題について、地域密着型研究課題として取り組んでいる。

国では、各都道府県、関係団体等から地域の抱える懸案事項を収集、研究・技術開発課題を事業化している。特に、地域横断的な取り組みが必要な課題については、委託研究として関係都道府県と連携に努めており、本県水産業の振興に寄与する課題については、積極的に対応している。

(3) 後年度の財政負担

河川漁業、内水面養殖業はともに低迷状態が続いていることから、県内の漁業協同組合や養殖業界から産業振興のための新技術の開発及び支援が求められていることから、引き続き予算措置が必要となる。

(4) 事業主体及びその妥当性

研水産業の振興に寄与するものであり、県主体事業が妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 「良く釣れる川づくり」、「売れる水産物づくり」に向けて、河川漁業に対しては、「天然資源の持続的な管理」・「効率的な増殖方法」に関する技術開発、養殖業に対しては、「より効率的な生産体制の構築」・「新たな地域特産品の創出」に関する技術開発に取り組む。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R4)	達成率
技術移転の推進 ※関連企業への技術移転	—	8 件	8 件	8 件	8 件	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2	県単試験 6 課題、国補試験 2 課題の研究開発を実施し、確立した技術については、試験研究成果普及カード（3 件）、成果報告会（書面 1 回）、養魚講習会（1 回）で成果の普及に努めた。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	河川漁業、内水面養殖業はともに低迷状態が続いていることから、県内の漁業協同組合や養殖業界から産業振興のための新技術の開発及び支援が求められており、事業の必要性は高い。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：まだ期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	毎年新たな技術移転を継続して実施してきた結果、養殖生産量が増加した。また、地域ブランドとしてのチョウザメ・カジカ類・ナマズ養殖への関心が高まる等、事業効果が現れている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	各研究課題について、提案及び予算要求の段階から内容を十分に精査し、経費の削減に努めている。また、各課題間での設備備品の共用等により経費執行の効率化を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 河川漁業のうち、アユについては、冷水病やエドワジエラ・イクタルリ感染症の蔓延防止策及び漁獲に寄与しやすい放流種苗の開発が求められている。アマゴ等溪流魚では、自然再生産を活用した増殖技術の開発が望まれている。養殖業では、生産の効率化とともに、高付加価値魚の生産や地域ブランドの開発に対する強い要望がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内の河川漁業及び養殖業の振興を図るため、河川漁業に対しては、冷水病菌、エドワジエラ・イクタルリ菌の放流種苗への保菌検査結果を漁協に提供する等、健全なアユの放流種苗の確保を支援するとともに、天然アユが遡上しない河川に向けた効果的な種苗の導入・放流技術を開発する。アマゴ等溪流魚についても、自然再生産を助長する漁場の利用技術の開発に取り組んでいく。養殖業については、付加価値の高いマス類の卵の供給に加え、商品性の高い大型マス用種苗の研究を引き続き継続する。また、新たな地域ブランドとしてのチョウザメやカジカ類、ナマズの養殖技術の普及に努める
--

